
中村区の活動事例



中村区

塩池町4町内まちなか避難訓練



【日比津学区】

■世帯数：5,004 世帯

■人 口：9,905 人

■面 積：1.083 k²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区の地域密着型防災訓練として「まちなか避難訓練」を年に一度開催。地震等の災害発生時を想定して各町内の組ごとに塩池公園まで移動し、防災教育訓練を行っている。延べ参加者数は約 280 人。
- ・各町内で訓練内容を記載したチラシを回覧し、組長が事前に参加申込者を集計する。
- ・訓練当日は、火災や家屋倒壊等で通行不可能となる道路を想定し、消防団員による誘導指示を受け、迂回路を移動する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧と掲示板への掲示、組長をはじめとする地域での呼びかけ

【アピールポイント】

地域 4 町内に、急にお願いをし、梅雨時の悪天候が心配される中でありながら、多数の参加者があったこと。地域の横のつながりが多くの方の参加につながったと思う。

2 きっかけ、背景

学区全体での訓練を行ったとき、各町内の役員はいつも参加するが、一般住民の参加がなかったため、地域に密着した訓練を行うことで、意識を高めようと考えた。

3 実施の体制

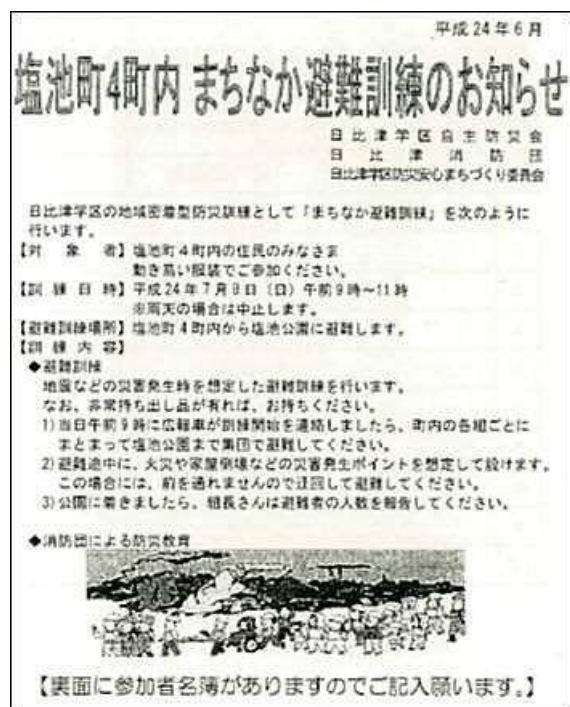
- (1) 運営メンバー
区政協力委員、消防団員、防災まちづくり委員会（各町内に1人）
計約50人
- (2) 他団体との協力
学区自主防災会、学区防災安心まちづくり委員会
- (3) 運営協力
防災安心まちづくり委員会、消防団と共同し、地域住民にお願いしている。

4 実施のスケジュール

H23年 5月	塩池町内での地域密着型訓練の計画を出す、諸事情により年度内の開催は中止
H24年 4月	再度、塩池4町内での訓練計画を作成
6月	急遽、7/8に訓練日を決定、6/12より訓練内容の回覧と参加者申込開始 参加者の確認
7月8日	まちなか避難訓練開催

5 成果と課題

- (1) 成果・効果
従来の訓練には参加する機会がなかったが、今回は参加してみたいとの声が出るなど、地域住民の防災に対する意識が高まった。
また組長を中心として地域住民間の交流が深まった。
- (2) 苦労した点
参加者の確保と、理解を得ること。回覧を始めてから訓練実施までの期間が短かったため、参加者の確定がなかなかできず苦労した。
- (3) 今後の課題・展望
活動の継続と、担い手の世代交代が課題だが、学区主催の訓練だけでなく、各町内自主防災会を中心に定期的に各自で行うことにより、若手の担い手が生まれると思う。
- (4) メッセージ・アドバイス
今回は組長が地域住民の名前と顔を全て把握しておらず、当日の出欠席確認がスムーズに行えなかった。各町内全体の交流をいろんなことで深めて行きたいと思う。



救急安心カード

【諏訪学区】

■世帯数：2,498 世帯

■人 口：5,601 人

■面 積：1,373k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 学区内全世帯対象に、自宅に駆けつけた救急隊が病院に搬送する際、情報を取得し、適切で迅速な処置をするために役立てる「救急安心カードキット」を配布。
- キットは「救急安心カード」とそのカードを入れる「容器」、およびカードを配置していることを救急隊に知らせるための「シール」（玄関用と冷蔵庫用の2枚）からなる。
- カードには、かかりつけ医、常飲している薬、緊急連絡先などを記入し、容器に入れ、冷蔵庫のドアポケットに保管する。設置場所は学区から消防署救急隊に事前に連絡しておく。
- 約 790 世帯 5,500 人が利用している。

【住民へのPR方法】

全世帯にキットを配付する。学区防災訓練会場にて使用方法の説明を行う。

【アピールポイント】

高齢者世帯だけでなく、全世帯に配布したこと。カードへの記入をきっかけに、家族全体で使用している薬、病状を共有することができ、また緊急連絡先として親戚・知人に依頼をすることで交流が生まれること。

2 きっかけ、背景

ある男性が自宅で転倒・怪我をした時に、家族がパニックになり救急車を呼ぶこともできず、駆けつけた隣人が救急出動要請をしたものの、名前・年齢・持病の有無など、基本的情報も伝えることができなかったという事件をきっかけに、救急医療情報キットの導入を検討した。当初は高齢者世帯を対象に検討したが、カード設置を知らせるシールを玄関に貼るため、高齢者世帯の目印となる危険性があること、および若い世代でも持病を抱える人はいることから、全世帯への配布を行うことにした。

3 実施の体制

- (1) 運営メンバー
区政協力委員、消防団員
計約 21 人
- (2) 他団体との協力
防災委員会だけでなく、学区連絡協議会全体で内容を周知し把握している。
- (3) 運営協力
学区連絡協議会全体の事業とし、運営 PR、書き換え用紙の用意などを行う。

4 実施のスケジュール

H21 年 学区防災会議に救急医療情報キットを提
4月 案し、了承を得る



8月 • 原案用紙の制作、見積もりを取る
• 東海市の救急医療情報キット「命の助
つ筒」を視察



H22 年 キット完成。中村消防署に各消防署・出
5月 張所への配布を依頼



H22 年 学区防災訓練会場にて「救急安心カード」
6月 の使用方法を説明・PR

5 成果と課題

- (1) 成果・効果
このカードに情報が書いてあると思うだけで安心だという声が出ている。
- (2) 苦労した点
住民の理解を得ること。町内会費に見合っていて、いかに良いものだといっても、その気になってもらうことが難しい。
- (3) 今後の課題・展望
活動の継続。体調が変わればカードの内容も変化するため、今後は何年ごとに配布するかが課題。
- (4) メッセージ・アドバイス
キットの作成にあたっては、数社の見積もりを参考に経費を安くする努力をした。

稲葉地学区地域安全大会



【稲葉地学区】

■世帯数：8,082 世帯

■人 口：16,494 人

■面 積：1.734 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年 10 月に中村警察署・中村区役所・中村区連合防犯協議会との協力により、学区あがての防犯・交通事故防止の啓発行事として「稲葉地学区地域安全大会」を開催。
- ・ 地域における交通事故や犯罪の最新情報の講話や、地域住民が巻き込まれる可能性の高い犯罪を取り上げた寸劇等を披露し、防犯意識向上を図る。
- ・ 中村文化小劇場ホールにて開催。参加者数は約 350 人。

【住民への PR 方法】

町内毎に参加者を募り、案内状を配布

【アピールポイント】

参加者が実例を目の当たりにすることにより、地域の犯罪情勢を理解し防犯意識を高め、被害を未然に防いでいる。また、交通事故に関しても加害者にも被害者にもならないよう事故防止の役割を果たしている。

2 きっかけ、背景

稲葉地学区は地域が広くて住民も多く、高齢者比率も高いため、防犯や交通事故防止の必要性も強い。高齢者をはじめとする地域住民のため、安全で安心なまちづくりが望まれており、継続して年に一回開催している。

(H24 年度で 25 回目の開催)

3 運営体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、中村区連合防犯協議会、女性団体・女性会、民生委員児童委員、PTA 計約 30 人

(2) 他団体との協力

中村警察署、中村区役所、中村区連合防犯協議会

4 運営スケジュール

S62 年
10 月 小学校体育館において第一回を開催



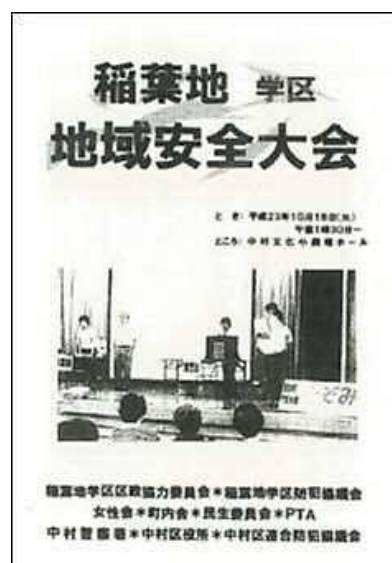
毎年8
月 各団体との最終調整



9 月 参加者への案内状



10 月 稲葉地学区地域安全大会 開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加住民の防犯・交通事故防止に対する住民意識の高まりが見られる。

(2) 苦労した点

新たな参加者の確保。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続。



スタンプラリー



【稲西学区】

■世帯数：3,085 世帯

■人 口：6,992 人

■面 積：0.765 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 稲西小学校校庭および稲西公園を会場にスタンプラリーを開催。参加者は子どもから高齢者まで約 200 人。
- ・ 午前 10 時に集合した参加者にスタンプカードを配布し、会場内に設置した 9 つのブースを経てスタンプを集め、ゴールまでの速さを競う。
- ・ 平成 23 年度のブースの内容は「空き缶積み」「資源分別」「ブロック積み」「じゃんけん」「グランドゴルフ」「消火器訓練」「万華鏡」「折り紙」「なぞなぞ」など。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

学区内の各種団体が一体となって行事を行うことで連帯感が生まれている。小学校の協力により小学生の参加も多く、さまざまな年齢層の住民がなごやかに集い、楽しんでもらっている。

2 きっかけ、背景

稲西学区では区政協力委員会を中心に各種行事を実施（敬老会は民生、成人式と盆踊りは女性会、防災訓練は消防団など）しているが、毎月の区政協力委員会の前に開催する学区連絡協議会の会合で、各種団体が一体となって行事を行い、子どもから高齢者までふれあう機会としたいとの提案があったことがきっかけ。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、スポーツ推進委員 計約80人

4 実施のスケジュール

H23年9月

- ・実行委員会の開催
- ・チラシの作成、スタンプカードの印刷
- ・区政協力委員会でチラシの組回覧を依頼、参加者を募る
- ・各団体にブースの出し物検討を依頼

10月 参加者を集計し、景品等を購入

11月 スタンプラリーの開催
運営メンバー全員で会場設営

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加し、住民相互のふれあいが深まった。また、運営団体の連携体制が強化された。



(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労したが、小学校の協力により学校の年間行事に加えてもらうことで、実施前には児童に参加をよびかけてもらっている。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が課題。各ブースの内容をはじめ、年々、新しい企画を盛り込みたい。

さいわい塾(つるかめクラブ)



【中村学区】

■世帯数：3,769 世帯

■人 口：7,380 人

■面 積：0.742 k^m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月第四金曜日に幸町下区公民館において開催。延べ参加者数は約 250 人。
- ・ 毎月 1 テーマを定め、学習・勉強・知識向上を行い、メンバーが興味を持って参加できるようにしている。（例：絵手紙作成、絵馬作成、尿もれ体操など）
- ・ テーマが決まらない場合は 1 時間程度の雑談をする。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧と、年間行事計画への掲載

【アピールポイント】

以前よりもコミュニケーションが取れるようになり、高齢者が抱えている困りごとに関する情報が入り、手助けをすることができた。

2 きっかけ、背景

老人会に所属するメンバーでも、コミュニケーションがなかなか取れず、老人会が名ばかりになっては問題だとの意見があり、まずは一人でも多く、一回でも多く外出してもらうためにその機会をつくろうと、「お茶飲み会」の開催からスタートした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員 1 人、老人クラブ 8 人 計 9 人

(2) 他団体との協力

講師等、原則は町内の方に、テーマによっては外部に依頼している。

(3) 運営協力

会役員の協力により運営

4 実施のスケジュール

H24 年 5 月 ゴキブリだんごづくり



6 月 町内日帰り旅行に参加（水郷めぐり）



7 月 早朝ラジオ体操に参加



8 月 絵手紙作成



10 月 秋祭りに参加（子どもと一緒に）



11 月 絵馬づくり

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 初めの頃は 10 人程度だった参加者が 15～20 人ほどまで増加した。
- ・ 高齢者の困りごとに関する情報を入手できた。

(2) 苦労した点

- ・ テーマの選定に苦労している。行政テーマの活用等、幅広く選択肢を持って推進している。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続が課題。肩肘を張らずに集まることを最優先にして継続したい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 老人会はもとより、町内会のバックアップが大事である。

防災体験～学校に泊まろう～



【豊臣学区】

■世帯数：2,513 世帯

■人 □：4,723 人

■面 積：0.404 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・避難所となっている豊臣小学校を会場に防災をテーマにしたイベント「防災体験～学校に泊まろう～」を実施。参加者は約 120 人。
- ・1 日目は夕方体育館に集合し、防災に関するクイズ大会、炊き出し訓練を兼ねた夕食をとった後、夜間停電時の避難所移動体験として学校内を探検し、希望者は体育館にて宿泊。2 日目は運動場にて起震車乗車体験、煙道体験、バケツリレー、水消火器体験といった活動のほか、消防団による放水訓練の見学を行った。

【住民への PR 方法】

小学校を通じ、PTA 会員へのチラシ配布

【アピールポイント】

通常の防災訓練では高齢者の参加が多く、不安があったが、本企画には児童、PTA（おやじの会）など若い参加者が多く、地域の防災力向上につながった。

2 きっかけ、背景

9月2日に行う学区の防災訓練は約 200 人の参加があるが、高齢者が中心であり、児童や若い世代の参加者が訓練する場を設けることで、防災意識の啓発を行うこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、PTA（おやじの会）、女性団体・女性会他 計約35人

(2) 他団体との協力

防災委員

(3) 運営協力

小学校の協力により児童に呼びかけて多くの参加者を得ている。

4 実施のスケジュール

H24年 おやじの会にて「防災体験～学校に泊まろう～」実行委員会の発足
5月26日

6月11日 学校、PTA、学区による打合せ

6月22日 学校、PTA、区政、消防団、防災委員による打合せ

7月5日 実施内容の打合せ

7月9日 中村区役所、中村消防署による打合せ

8月25日 「防災体験～学校に泊まろう～」の実施
・26日



5 成果と課題

(1) 成果・効果

学校、PTA（おやじの会）、児童、学区連絡協議会のメンバーの意思の疎通ができた。

(2) 苦労した点

最初は年代差から意見の違いがあったが、打合せにより理解ができた。

(3) 今後の課題・展望

防災意識の向上のため活動を継続していきたい。夜間の公有財産の使用許可条件を見直して欲しい。

(4) メッセージ・アドバイス

防災訓練時の体験を家庭で話し合い、親子の絆を一層強めていけるとよい。

盆おどり大会



【本陣学区】

■世帯数：2,691 世帯

■人 □：4,758 人

■面 積：0.330 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

旧本陣小学校校庭において、地域住民のふれあい、親子の交流の場として盆おどり大会を毎年開催している。延べ参加者数は約 2,000 人

【アピールポイント】

30 年以上継続している。

2 きっかけ、背景

住民間や世代間のふれあい、交流促進のために昔から毎年行っている行事で、学区全体で行っている。30 年以上続いているが、近年、役員（区政協力委員、PTA、子ども会など）でバザーを開催するようになった。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会 計約 50 人

(2) 他団体との協力

女性会など

(3) 運営協力

後継者育成のために経験者を増やしていく。

4 実施のスケジュール

毎年
6月 学区連絡協議会で打合せ



7月 女性会を中心に踊りの練習



8月
上旬 子ども会を通じて広報



8月
中旬 盆おどり大会の開催
後日やぐら・テントの解体

5 成果と課題

(1) 成果・効果

毎年開催していることや、バザーを始めたことで、参加者が増加し、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と担い手の世代交代が課題。地域の高齢化により担い手の世代交代がなかなか進まないが、盆踊り運営の経験者を増やしていくことで後継者を育成していきたい。



則武学区秋のハイキング



【則武学区】

■世帯数：4,306 世帯

■人 口：7,293 人

■面 積：0.511 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 学区民と青少年の交流の場として、年に 1 回開催。平成 23 年度は東山 1 万歩コース及び東山動植物園において、ハイキングを開催。参加者は約 100 人。その他、年 3 回別行事（安全講習会、防災マップ作り、ノンフォーマル教育を考える）を開催。
- 特に、安全講習会においては、救急法・危険予知トレーニング等を行い、災害事前予防に努めている。
- ハイキング等学区行事への参加を通じて学区の他の事業にも積極的な参加が見られるようになり、住民の会話も弾み和やかな雰囲気が自然に生まれている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、子ども会役員会でチラシ配布

【アピールポイント】

区政協力委員全体で役割分担し、一丸となって行事に参加している。

2 きっかけ、背景

名古屋市の提唱する「安心・安全で快適なまちづくり」の一環として何ができるか学区で考え、青少年育成協議会を中心として手探りではじめた。学区内住民と区政協力委員とのつながりが希薄になりつつある中、いかに学区内住民との交流を深め、町内で会っても気軽に挨拶できるようにとの思いで、委員長を先頭に区政協力委員の協力を得て実施している。

3 実施の体制

- (1) 運営メンバー
区政協力委員、計約 22 人
- (2) 他団体との協力
企業の協力を得て参加者にお菓子を提供
- (3) 運営協力
できるだけ学区内住民の協力を得るようにしている。

4 実施のスケジュール

H23 年
5月 参加者用パンフレットの打合せ



8月 参加者用パンフレット打合せ2回目



9月 1万歩コースを区政協力委員で
下見・調査
区政協力委員を通じチラシを配布
植物園担当者と打合せ



11月 ハイキング実施
13日 実施後、担当者で振り返り、評価

5 成果と課題

- (1) 成果・効果
住民間の交流が深まった。区政協力委員が青少年行事に積極的に参加して住民との交流も深まった。
- (2) 今後の課題・展望
別行事を含めて年4回開催するための活動資金の確保が課題。活動資金がもう少しあれば、充実したプログラムが展開できる。
- (3) メッセージ・アドバイス
学区内住民と区政協力委員とのコミュニケーションに役立つ。



亀島学区インディアカ大会



【亀島学区】

■世帯数：2,850 世帯

■人 口：5,078 人

■面 積：0.532 k^m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区内でニュースポーツ「インディアカ」の大会を年に 1 回開催。
- ・週 2 回、筈瀬中学校体育館および亀島小学校体育館において、練習を行っている。参加者数は約 80 人
- ・親睦、交流を深めるために年に 2 回食事会を開いている。

【住民への PR 方法】

スポーツ推進委員による町内別の選手集め

【アピールポイント】

年 1 回（7 月上旬開催）の大会を開き、一般、新人の約 80 人が集まり、インディアカを楽しんでいる。表彰もあり、人気スポーツの一つである。

2 きっかけ、背景

昭和 54 年の発足から、住民の交流促進、健康づくりやスポーツの促進に役立っている。運動会同様、スポーツ行事として受け継がれている。

3 運営体制

運営メンバー

区政協力委員、スポーツ推進委員 計約 80 人

4 運営スケジュール

H24 年 インディアカ大会開催打合
6月7日 (各町内参加チーム数、一般・新人の分け方、メンバー構成等)



6月中旬 上位3チーム表彰用賞品の購入



6月24日 亀島小学校体育館にて公開練習



7月1日 大会開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

スポーツを通じて住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労している。大会当日、他のスポーツ行事と重複すると、参加人数が大幅に減ってしまう。



(3) 今後の課題・展望

活動の継続が課題。若者の入会が少ない。

(4) メッセージ・アドバイス

中村区内でのインディアカチームは減少傾向にあるが、クラブ員を募り、体力向上と親睦を図れば楽しいスポーツであると思う。

御岳キャンプ



【新明学区】

■世帯数：1,707 世帯

■人 □：2,587 人

■面 積：0.757 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・約 50 年間連続で実施している小学生のキャンプイベント。
- ・小学校 4 年生以上を対象に、名古屋市民おんたけ休暇村キャンプ場（長野県）にて二泊三日で行う。参加人数は 25 人。
- ・子ども同士のコミュニケーションを図り、自然に対する勉強と親元を離れての自立やマナーの習得をすすめる。

【住民への PR 方法】

笹島小学校を通じて募集

【アピールポイント】

子どもが期待しているイベントである。キャンプ費用の全額を学区で負担している。

2 きっかけ、背景

子どもの数が減少する中、名古屋市営の御岳キャンプ場を利用することに安心感があり、約 50 年にわたって継続している。

3 運営体制

運営メンバー

区政協力委員、PTA、スポーツ推進委員 計約 20 人

4 運営スケジュール

H24 年 5 月 笹島小学校との打合せ



6 月 参加申し込み開始



7 月 31 日
～ 御岳キャンプ実施
8 月 2 日



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者の増加、住民意識の高まり。

(2) 苦労した点

- ・参加者の確保。6年生になると私立中学校受験のため、参加人数が少なくなる。
- ・保護者の理解を得ること。事故に対する不安感がある。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続、担い手の世代交代、活動資金の確保。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・児童数が少ないために実施できると思うが、子どもたちが期待しているイベントのため、可能な限り継続していきたい。

親子ソフトボール大会



【六反学区】

■世帯数：2,749 世帯

■人 □：3,862 人

■面 積：0.613k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 2年に1度、トーナメント方式で「親子ソフトボール大会」を開催。会場は星槎中学校校庭（旧六反小学校）で、参加者数は約 200 人。
- ・ チーム構成は小学生 2 人、大人（中学生以上）7 人以上とし男女どちらでも参加できる。
- ・ 大会に向けて練習日を設定し、各チームに広報している。
- ・ 1 町内 1 チームを原則としている。町内によっては参加希望者が少なく、1 町内ではチームが作れないこともあるが、参加することに意義があるため、相談のうえ混成チームを編成している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

隔年の開催で、平成 24 年度で第 19 回となり、継続して開催できている。

2 きっかけ、背景

学区内が過疎化、少子化する中で、よりよい親子のつながりを持ち、父・母・子どもたちと一緒にスポーツをしながら心身の健康増進を図ることを目的としている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、消防団員、PTA、
スポーツ推進委員、学区ソフトボールクラブなど 計約 50 人

(2) 他団体との協力

地域団体、ボランティア団体、企業（賞品提供）、NPO

4 実施のスケジュール

隔年 5月	運営準備会のお知らせを回覧
----------	---------------



7月	運営準備会開催
----	---------



9月 中旬	親子ソフトボール大会開催
----------	--------------

5 成果と課題

(1) 成果・効果

スポーツを通じて住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

参加者の確保。子どものケガを心配する親が増えている。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と担い手の世代交代が今後の課題。現在は区政協力委員が実行委員を担っている。

餅つき大会



【牧野学区】

■世帯数：4,092 世帯

■人 □：7,332 人

■面 積：0.658 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年 12 月に牧野小学校校庭・体育館・家庭科室などを会場に「餅つき大会」を開催。延べ参加者数は約 1,300 人。
- ・ 大人だけでなく子どもも参加し、きなこ餅づくりをするほか、ポン菓子製作見学・試食などを行い、来場者の交流が深まっている。
- ・ 事前に参加券を販売（1 枚 100 円）し、当日会場でパック餅か、きな粉餅づくりへの参加と引き換えている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

平成 24 年度で 36 回大会と、継続開催している。大きな事故もなく継続できているのは多数の協力のおかげである。

2 きっかけ、背景

牧野学区においても少子高齢化が進み、核家族化により地域との関わりが希薄化している。それを防ぐ手段として庶民の伝統文化である「餅つき」の催行によ

り、幼児・青少年・保護者・高齢者のふれあいの場を提供することを目的としている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、
消防団員、PTA、子ども会、トワイ
ライトルーム、ボランティア団体
計約 80 人（2日間延べ）

(2) 他団体との協力

牧野放課後こどもプラン、たけの
こボランティア

(3) 運営協力

準備、餅つき大会当日に関係各方
面へ協力を依頼。

4 実施のスケジュール

毎年3月 事業計画書作成・連絡協議会に提
・4月 出

10月 大会予算案を提出、連絡協議会に
による承認
各関係方面へ大会協力要請
施設使用許可申請・承諾
参加券印刷依頼

11月 大会器材貸出許可申請・承諾
役割分担決定、参加券配布
大会情報をタウン誌に提供

12月 餅つき大会開催
開催後、関係者にお礼状配布

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加（H15/780 人→
H20/1,270 人→H23/1,346 人）し、
住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

他団体との役割分担でのめごと、予
想を超える参加者の来場、ボランティア
の手配。

(3) 今後の課題・展望

餅つき大会継続のため、担い手の世代
交代は必要不可欠であり、他団体の協力
なども含めて運営体制を再考する必要が
ある。

平成23年度 牧野学区子ども会

第35回 餅つき大会 ご案内

牧野学区子ども会では、毎年12月に餅つき大会を行っています。

子どもと一緒に 餅つきたい人・つきたての餅で きな粉餅を作りたい人・餅を食べたい人 参加してください！！

日 時 12月 5日(日)
9時 ~ 11時30分

場 所 牧野小学校

参加方法 参加費(1枚 100円)をご購入下さい

※子ども会費は11月13日までに
振込代金の代金を添えて下記のように
専用でお申し込み下さい。
11月15日~30日までに参加費を
お支払い下さい。

※お子さんの餅つきは 10:00 から行います

参加費 バック・おかん・マカドまたは、きな粉もち・おかん・マカド
と交換します

※ 当日券はありませんのでご注意ください

餅つき参加者 申し込み

(控え)名前	人数	代金

申し込み

(申し込み)名前	人数	代金

夏まつり盆おどり大会



【米野学区】

■世帯数：3,245 世帯

■人 □：6,539 人

■面 積：0.875k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 米野小学校校庭において、地域住民のふれあいの場として毎年7月最終の土日
に開催。延べ参加者数は約 2,000 人
- ・ 夏まつり盆おどり大会実行委員会を設置し、実施要項、役割分担を決定。運営
メンバーの分担によりパフォーマンス参加チームを募集、青少年健全育成体験
の場として盆おどりだけでなく、パフォーマンス発表も行う。
- ・ その他、「風船ヨーヨーつり」や「スーパーボールすくい」（小学生以下、ペッ
トボトルキャップ5つ以上と引き換え）や食べ物の模擬店も出店される。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、ポスター2種を200枚ずつ用意し、
協賛者に配布する。

【アピールポイント】

学区連絡協議会年間行事の一つ。実行委員会で企画・設営・撤去まで
分担して行う。青少年健全育成、体験の場としてパフォーマンス発表や
模擬店など子ども会中心で多くの子どもが参加している。

2 きっかけ、背景

平成 12 年に「自分たちの盆おどり大会は自主的に行う」と若い世代からの提
案があり、企画・運営からやぐらの組み立て、照明などの会場設営まで自主的に

お金をかけずに手づくりで開催するようになった。現在は学区連絡協議会、C.G.N（米野ゴールドネット）、小中学校も協力して学区全体が盛り上がり、盛大に行っている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生児童委員、保健委員、防犯委員、消防団員、PTA、女性団体、子ども会、老人クラブ、体育委員など 約 100 人

(2) 他団体との協力

C.G.N（米野ゴールドネット）、ボランティア団体

(3) 運営協力

小中学校の PTA 会長、執行部経験者といったOBの C.G.N 加入を図る。

4 実施のスケジュール

H24 年 4 月 学区連絡協議会で実施日決定

5 月 ポスター・チラシ作成準備

6 月 ~ 7 月 盆おどり実行委員会開催
・模擬店の品目を子ども会中心に決定
・ポスター、チラシの配布

7 月 会場設営
実施要項に従って、盆おどり大会開催
開催後撤去

8 月 反省会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・青少年育成の体験の場として親子のふれあいも生まれている。
- ・学区内住民だけでなく他学区からも子どもから大人までたくさん参加している。

(2) 苦労した点

- ・活動の担い手の不足、他団体との協力。当初の C.G.N のメンバーから 2 代目の若いグループに交代した。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続、担い手の世代交代、他団体との協力。米野学区の名物行事として継続開催していきたい。



日吉学区防災プロジェクト「プロジェクトH」



【日吉学区】

■世帯数：4,202 世帯

■人 □：8,390 人

■面 積：0.855 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

災害時における「死者〇火災〇」を目標とする継続的な防災活動を実施。主に日吉小学校を会場とする。延べ参加者数は約 1,000 人。

① 災害図上訓練 D I G

地域で大きな災害が発生した場合を想定し、地図への書き込みを通じて参加者が積極的な災害への対策を考えることができる防災訓練

② 日吉学区救出希望カード

地震等の災害により家屋が倒壊した場合の救出作業に必要な基本情報（普段寝ている場所と道路との位置関係など）の調査

③ R2（あるある）パック（レスキュー&リサイクル）

持ち寄ったリサイクル用品で非常持ち出し防災用品の作成、再配付

④ 青年会議所・日吉学区共同避難訓練

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

活動内容が認められ、平成 17 年に総務省「第 9 回まちづくり大賞・消防科学総合センター理事長賞」、平成 18 年に全国防災フェア名古屋大会「審査員特別賞」、平成 19 年に同京都大会「表現賞」と、3 年連続で受賞している。

2 きっかけ、背景

平成 12 年5月に防災安心まちづくりモデル学区に指定される。平成 12 年より「プロジェクトH」と総称する多種多様な防災まちづくり活動を開始した。平成 13 年に日吉学区防災安心まちづくり委員会を発足した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、防災委員、体育部員、防犯委員、少年補導委員 計約 200 人

(2) 他団体との協力

NPO 法人レスキューストックヤード、名古屋青年会議所

(3) 運営協力

学区連絡協議会各役員

4 実施のスケジュール

H24 年 9月9日	青年会議所支援による小学生中心の学区防災訓練を実施
---------------	---------------------------



7月 14 日	1 町内の子どもたちによる9月9日を想定した模擬紙上訓練を実施
---------	---------------------------------



8月 26 日	消防局出前講座「南海トラフ名古屋港は 日吉学区は」の開催 (特に小中学生及び高校生に受講を呼びかけた。)
---------	---



9月9日	青年会議所・日吉学区共同避難訓練を実施 (例年がない大掛かりな訓練)
------	---------------------------------------

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 子どもが多数参加し、防災意識が高まった。将来の地域ボランティアとしての活動に期待している。

(2) 苦労した点

- 参加者の確保のために、学区内住民全体への回覧と子ども会加入世帯への回覧、声かけを行っている。
- 役員へ活動への理解と協力を呼びかけた。

(3) 今後の課題・展望

- 大災害が起こるまでの高い意識の継続・持続。活動資金の確保(炊き出しには経費がかかる。)、備蓄物の入替えも若い世代や他団体との協力・支援が必要。

(4) メッセージ・アドバイス

- 防災活動を指導できる立場の方に積極的に関与してもらうために、運営側である各種団体の役員に対する啓発が大切です。

千成学区納涼大会



【千成学区】

■世帯数：5,515 世帯

■人 口：10,534 人

■面 積：0.956 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年8月の第1 土曜日と日曜日に押木田公園を会場に納涼大会を開催。延べ参加者数は約 2,400 人。
- ・ メインの「盆踊り」と「子供相撲（小学生以下が対象。300 人が参加）」を盛り上げるため、千成学区祭り同好会による夜店が集客している。
- ・ 計画書の作成、機材及び業者の手配、チラシ・ポスターの作成、土俵作成など、大会準備は実行委員会が中心となって進める。
- ・ 大会初日には役員約 200 人が会場設営を行い、翌月曜日の朝に片付けを行う。
- ・ 大会中の防犯対策として、千成学区役員によるパトロールを随時実施している。
- ・ 子供相撲大会：本物と同じ仕様の土俵を作り、男女別・学年別の取組みのほか、同じ学年全員（男女別）が土俵に上がり、最後の1 人の「お山の大将」を目指す。賞品は毎年メロン1 個とする。
- ・ 盆踊り：お馴染みの曲に毎年1 曲を加えている。休憩時には参加者にアイスクャンディを配るほか、臨時の給茶所を設けて冷たい麦茶を振る舞っている。
- ・ 夜店（千成学区祭り同好会）：約 30 人で運営。飲み物やおにぎり、フランクフルト、みたらしの飲食コーナーとスマートボール、輪投げなどのゲームコーナーを出店する（ともに 100 円）。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、ポスター掲示

【アピールポイント】

大勢の参加者の笑顔と汗が見られる。携わった役員の連帯・達成感が感じられる。子供相撲は本物と同じ仕様の土俵で大いに喜ばれている。

2 きっかけ、背景

千成学区が誕生した昭和 35 年当時は、約半分が農地だったが、バブル期・地下鉄の延伸を機に住宅・マンションが急増し、学区としての一体感に欠けるように感じていた。そこで昔は各町内で行われていた文化行事を継続開催し、学区全体の交流を図り、同時に学区連絡協議会役員の団結を強くしたいと考えた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、スポーツ推進委員、千成学区祭り同好会 計約 200 人

(2) 他団体との協力

千成小学校、豊国中学校、地域団体、企業

4 実施のスケジュール

毎年5月 実行委員会の開催（計画書案作成）



6月 押木田公園使用許可等の申請（消防署等）



7月
・学区連絡協議会にて実施計画の決定
・準備用品・機材及び業者の手配
・開催案内チラシ・ポスターの作成、配布



8月
・子供相撲の土俵づくり
・大会当日の朝、会場準備

5 成果と課題

(1) 成果・効果

役員を含め2日間で2,400人ほどの参加がある大盛況の行事であり、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

平成22年は大会初日が雨天であったため、砂をトラック五台分敷いて開催したが、売店の生ものの処理等の対策に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代。役員・祭り同好会の高齢化が進んでおり、若い世代の役員参加が望まれる。



学区行事協力会



【柳学区】

■世帯数：4,714 世帯

■人 口：9,589 人

■面 積：1.179km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 大きな学区行事の準備と片付けを、旧来の消防団や区政連絡協議会委員などだけでなく、学区内の若い世代からなる「行事協力会」が円滑に行う。
- ・ ソフトボール大会、盆おどり、運動会、防災訓練、その他学区行事を対象としている。

【住民への PR 方法】

区政連絡協議会の一団体として、その活動の中で徐々に浸透

【アピールポイント】

行事協力会会員として、誇りをもって行事に参加し協力する。会員相互の親睦をはかり、安定した団体として学区に貢献する。

2 きっかけ、背景

区政協力委員等の高齢化で学区行事の運営（特に、テント・太鼓台等の作製）に支障をきたしていたため、徳山氏と大橋氏が中心となり、少し若い世代との交流および学区行事への参加・協力などの実働部隊として特定指名により集めて「学区行事協力会」を立ち上げた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

地域の協力者 25 人で構成

(2) 他団体との協力

中村区を明るくする会、柳消防団

4 実施のスケジュール

H22 年 6 月 10 人の会員で発足



H24 年 4 月 区政連絡協議会の一員となり、活動



6 月 3 日 ソフトボール大会



8 月 18 日 盆おどり



9 月 3 日 防災訓練



10 月 21 日 運動会



H25 年 1 月 成人式



5 成果と課題

(1) 成果・効果

従来の各町内会からの推薦ではなく、実働できる人を重点指名して集めた結果、担い手が増加した。

(2) 苦労した点

実働できる人のタイプ別の人選など、メンバーの確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と、より一層の人材の確保。

岩塚学区運動会



【岩塚学区】

■世帯数：5,318 世帯

■人 口：11,287 人

■面 積：1.829k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 毎年 10 月第三日曜日に岩塚小学校において岩塚学区運動会を開催。延べ参加者数は 800～1,000 人。
- 学区連絡協議会の役員全員が参加、運営に当たる。主な分担は以下のとおり。
 区政協力委員会：会場の設営、賞品・景品調達・本部運営
 消防団：会場設営および会場内に防災の啓発活動のブースを運営
 体育部：競技の運営全般
 防犯：会場周辺の警備・自動車の整理等
 民生：おたのしみ抽選会場担当、独居老人の昼食会の世話
 女性会：災害時を想定した炊き出しによる昼食の準備

【住民への PR 方法】

各町回覧板と各戸配布のプログラム

【アピールポイント】

通常の運動会行事だけでなく、女性会が災害時を想定した炊き出し訓練として見学に招待する独居老人の方など 200 人分の昼食を準備しているほか、消防団が会場内ブースにおいて、AED の使い方、担架の作り方の指導など、防災イベントも同時開催していること。

2 きっかけ、背景

学区一番のイベントとして毎年開催している運動会は平成24年で46回目を迎える。モットーは学区民の親睦を図り、町民の絆を深め、忘れられてきた「向こう三軒両隣」の意識を思い出す良い機会とし、子どもも大人も一緒になって楽しく喜んでもらえるよう、毎年工夫をしている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会、老人クラブ、スポーツ推進委員など 計約120人

(2) 他団体との協力

小学校職員と小6の児童が放送器具係として協力してくれる。

(3) 運営協力

昼の休憩時には「どまんなか祭」に出演したグループが30分ほど踊り、小学生も一緒になって踊りに参加し楽しんでいる。

4 実施のスケジュール

毎年8月 本番2ヶ月前から競技の賞品やおたのしみ抽選会の賞品等の購入準備に入る。

9月 体育部が競技内容、各部署への役割、器具の実験等1ヶ月以上前から準備

10月 運動会の開催。
当日は役員全員7:30から準備開始



5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まり。午前中の抽選会で午後の特賞の抽選券を配布し、午後に特賞の抽選を行うようにしたところ、参加者のほとんどが最後まで残るようになった。

(2) 苦労した点

活動の担い手の不足。役員全体が高齢化して大変なことが多いので若い世代の協力の必要性を感じている。

(3) 今後の課題・展望

伝統ある運動会であり、学区内住民のために頑張って様々な課題を乗り越え、継続させたい。

八社コミセンまつり



【八社学区】

■世帯数：3,221 世帯

■人 口：7,839 人

■面 積：1.113km²

平成 29 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 学区内住民の親睦と融和を目的に、隔年で八社コミュニティセンターおよび横井山緑地公園において「八社コミセンまつり」を、八社小学校において「運動会」を開催。八社学区連絡協議会が主催し、延べ参加者数は約 1,200 人。
- 子ども会による「餅つき大会」、ボーイスカウトによる「おもしろスタンプラリー」、女性会による「文化活動発表」・「バザー」、消防団による「防災グッズ体験」などその内容は多岐にわたる。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

【アピールポイント】

八社コミュニティセンターと横井山緑地公園が隣接するという立地条件を生かし、自然を有効に利用したい。

2 きっかけ、背景

人口の増加に伴い、従来の住人と新しく転入した住民との交流の場として運動会やコミセン祭りの重要性を見直し、「八社コミセンまつり」として開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

学区連絡協議会で協力をしながら運営しているほか、中村区社会福祉協議会も特別参加した。

参加役員は、計約 50 人に上った。

(2) 他団体との協力

新婦人の会、福祉法人やまびこ、中村区社会福祉協議会

4 実施のスケジュール

H29 年
6 月 コミセン運営会議

9 月 役割分担 コミセン会議

10 月 持ち場ごとの最終チェック
「八社コミセン祭り」開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加し、住民意識が高まっている。
コミセン祭りと運動会を隔年で行うことになっているため、5～6 月になると、問合せがあるほどになった。

(2) 苦労した点

参加者の確保。各行事の参加者数の予測が難しい。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と活動資金の確保が課題である。

